

**岐阜県予防接種センター相談窓口**

# **Q&A 集**

**<平成 20 年度>**

**平成 21 年(2009)年 3 月 31 日**

**岐阜県健康福祉部保健医療課**

**岐阜大学医学部附属病院生体支援センター(NST/ICT)**

## はじめに

一昨年、南関東地域を中心とした麻しんの流行と全国的な波及、及び排除国への麻しん輸出がみられ、この予防策にはワクチンしかないことから、県では平成24年度までに麻しんを排除することを目的とした予防接種キャンペーン(3期・4期の追加接種等)を実施しています。幸い平成20年度は県内での麻しんの集団発生はみられませんでした。しかし、ワクチン接種率の向上のために引き続き取り組んでいく必要があります。このため安心して予防接種が受けられるよう、小児科診療における予防接種実施前の十分な相談体制、情報提供体制及び副反応が発生した場合の救急医療体制を確保することが喫緊の課題となっています。

岐阜県では関係者の皆様方の御協力を得て、平成20年度から、岐阜大学医学部附属病院生体支援センター内に岐阜県予防接種センターを設置させていただいております。

本冊子は、平成20年度に予防接種センターに寄せられた、市町村及び医療機関からの予防接種に関する相談事例をまとめていただいたものです。DPT、DT、ポリオ、MR、日本脳炎、BCGなどの定期予防接種ワクチン及びB型肝炎、流行性耳下腺炎などの任意接種ワクチンに関して、接種時期、間隔、可否について、また海外への長期移住者や帰国者に対する接種計画など様々な相談に対して非常にわかりやすく、かつ具体的な回答をしています。他の解説書にはみられない内容となっていますので、現場での予防接種実施に際し、大いに参考になるものと思います。この冊子が有効に活用され、より適切な予防接種の指標となることを期待いたします。

最後に、本事業に全面的に御協力いただきました、岐阜大学医学部附属病院長の森脇久隆教授、同院生体支援センター長の村上啓雄教授、同院小児科の寺本貴英臨床准教授ほか関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成 21年 3月

岐阜県健康福祉部保健医療課長 田中 剛

## ★目次

### 1. MR

Q1 麻しん風しん	.....	8
Q2 MR	.....	10
Q3 MR	.....	11
Q4 MR	.....	12
Q5 MR	.....	13
Q6 MR	.....	14
Q7 MR	.....	15
Q8 MR	.....	16
Q9 MR 接種至適間隔	.....	17

### 2. 麻しん

Q10 麻しん	.....	19
Q11 麻しん抗体検査の要否	.....	20

### 3. DPT&DT

Q12 三種混合	.....	22
----------	-------	----

Q13	<b>DPT</b>	.....	23
Q14	<b>DPT</b>	.....	24
Q15	<b>DPT</b>	.....	26
Q16	<b>DPT</b>	.....	27
Q17	<b>DPT</b>	.....	29
Q18	<b>DPT</b>	.....	30
Q19	<b>DPT</b>	.....	32
Q20	<b>ジフテリア・破傷風二種混合(2期)</b>	.....	33
Q21	<b>DT 追加</b>	.....	34
Q22	<b>DT</b>	.....	35
Q23	<b>DT</b>	.....	36
Q24	<b>DPT DT</b>	.....	38
<b>4. 日本脳炎</b>			
Q25	<b>日本脳炎</b>	.....	40
Q26	<b>日本脳炎①</b>	.....	41
Q27	<b>日本脳炎②</b>	.....	42
Q28	<b>日本脳炎</b>	.....	43
Q29	<b>日本脳炎</b>	.....	44

## 5. その他

Q30	<b>BCG</b>	.....	46
Q31	<b>未熟児の BCG</b>	.....	47
Q32	<b>ポリオ</b>	.....	48
Q33	<b>新生児百日咳</b>	.....	49
Q34	<b>DPT と MR</b>	.....	50
Q35	<b>MR、DPT</b>	.....	51
Q36	<b>外国人ポリオと DPT</b>	.....	52
Q37	<b>HB とおたふく</b>	.....	53
Q38	<b>日本脳炎、BCG、ポリオ</b>	.....	54
Q39	<b>外国での接種後の対応</b>	.....	55
Q40	<b>1 歳 8 月海外長期移住</b>	.....	56
Q41	<b>接種可能年齢の解釈</b>	.....	57
Q42	<b>皮膚消毒薬</b>	.....	58
Q43	<b>溶連菌感染後の予防接種タイミング</b>	.....	59
Q44	<b>外国人来日者接種計画</b>	.....	60
Q45	<b>帰国後のワクチン接種計画-1</b>	.....	62
Q46	<b>帰国後のワクチン接種計画-2</b>	.....	64

<b>Q47 乳兒期接種順序</b>	.....	<b>66</b>
--------------------	-------	-----------

# 1. MR

## Q1 麻しん風しん

(予防接種の種類)

麻しん及び風しん

(相談内容)

平成3年2月生まれ(現在高校3年生)の女子生徒について、麻しん及び風しん予防接種第4期の対象となっているが、両方とも罹患歴があるので予防接種をどうしたらよいかと保護者から相談を受けました。

[罹患歴]

麻しん 平成4年3月2日(1歳)

風しん 平成3年6月20日(生後3ヶ月)

最初はいせもと思っていたが、発熱も見られたため受診したところ、風しんと診断を受ける。生後3ヶ月であったが、罹患することもあると言われた。

麻しん、風しんとも罹患歴があるため今まで両方とも予防接種歴はないが、特に女性であり、保護者はこれからの妊娠等のことを思うとこのまま未接種でよいのか心配である。抗体価の検査を受け、法に基づかない任意接種としてでも予防接種した方がよいのではないかと考えている。

麻しん及び風しんにすでに罹患したことが確実なものについては定期の予防接種対象者から除くとされているが、町としては保護者に対してどのような指導をするのがよいのか教えていただきたい。

## A1

ご質問ありがとうございました。お電話させていただきましたように、以下の2つを提案します。どちらでも構いません。

- (1) まずは、このまま第4期のMRワクチン接種を受けられることをお勧めします。もし過去の既往が確かであった場合は接種の必要はありませんが、既往があってもワクチンを接種しても問題ありませんし、また診断があいまいな場合も考えられなくはないので、受けられておかれれば安心できると思います。そもそも罹患の確実性を測ることはできないこともあって、希望があれば対象者に入れてあげてください。岐阜市の要項では「罹患したことがある者に接種しても差し支えないものとする。」と記載されています。
- (2) 2つ目の提案はご質問にあるように抗体価を測定の上、接種の適応をきめる方法です。しかしながら、とくに麻しんの場合、抗体価の検査は罹患しない範囲の数値



は明確にわかっておらず、抗体検査が接種適応判断において絶対的なものではないという問題点があります。でも、おおいに参考にはなりますので、この方法(検査は自費になります。)も良いと思います。

お役に立ちましたでしょうか。ご質問があれば以下のメールアドレスに再度お願いします。

[vaccine@gifu-u.ac.jp](mailto:vaccine@gifu-u.ac.jp)

## Q2 MR

1. MR (2・3・4 期)で、定期以外で過去に麻しん(もしくは風しん)の予防接種を受けていたら、MRを接種することで副作用が強くなり身体に悪影響があることはありますか？MRの接種をすすめてもよいでしょうか？

(例 中学1年生で今年MR3 期の対象だが、去年流行していたため 麻しんの予防接種を個人的に接種した)

2. MR (3・4 期)で、過去に麻しんも風しんも確実に罹患している場合MRの接種をすすめる必要はないでしょうか？

## A2

1. 基本的に何回打っても副作用は変わらないと思います。

# (中学1年生で今年MR3 期の対象だが、去年流行していたため麻しんの予防接種を個人的に接種した)

この場合も接種しておいてかまいません

2. 確実に罹患している場合MRの接種をすすめる必要はないと思いますが、そういう人は少ないと思います。

### Q3 MR

(予防接種の種類)

麻しん風しん

(相談内容)

①麻しん風しん第2期について

第1期を1歳ごろ定期で麻しん風しん混合ワクチンを接種し、3歳ごろ任意でもう一度麻しん風しん混合ワクチンを接種している場合、第2期に定期としての接種は必要であるか。

②麻しん風しん第3・4期について

1歳ごろ麻しん、風しんを単ワクチンで1回ずつ接種し、昨年麻しんの流行時に任意で麻しん風しん混合ワクチンや麻しんワクチン、風しんワクチンを接種している場合、今回第3期や第4期として接種することはその人にとって3回目の接種となるが、接種に関しては免疫上必要・問題はないか。また、接種するとしたら2回目にあたる接種からどの程度の間隔をあけることが望ましいか。

### A3

- ① 3歳頃に任意でもう一度打った理由が何かわかりませんが、確実にかからないようにするためならもう一度定期に打っておいた方が、経済的にもいいと思いますが。必要かといわれると、抗体はあると思いますが？
- ② 今回が初めてのケースなのでわかりません。ただし接種しておいた方がよいと思います。

## Q4 MR

(予防接種の種類)

麻しん風しん

(相談内容)

麻しん風しん予防接種の第4期の対象者(高校3年生)が、平成19年6月に麻しんの予防接種を受け、今回風しんのみ接種をしたいとこのことで医療機関に申し出たが、業者に風しんのワクチンがないと言われ、MR ワクチンでも受けてもよいかどうか(医療機関で判断できないため、質問がありました)この方は幼児期に麻しんの予防接種は受けています。

## A4

- ① 本日薬品卸業者に確認しましたが、風しんワクチンは現在品薄であるという情報はありません。したがって、風しんのみ希望であれば接種できるはずです。
- ② ただし、MR ワクチンを接種しても何ら問題はありません。風しんワクチンが入手困難であれば代用して構いません。

## Q5 MR

(予防接種の種類)

MR

(相談内容)

いつもお世話になっております。

今年度の第4期MRワクチン接種対象者の方で、幼児期に麻しん単抗原ワクチンと風しん単抗原ワクチンを各1回ずつ接種されており、昨年の麻しんの流行を受けてH19年中に任意で麻しん単抗原ワクチンのみ、2回目を接種した方がいます。

麻しん罹患者へのMRワクチン接種が可能であることから、麻しん2回接種済者へのMRワクチン接種も可能であると考えますが、そのような解釈でよろしいでしょうか。それとも、風しん単抗原ワクチンの接種を勧めたほうがよろしいのでしょうか。

お忙しいところ申し訳ございませんがご回答をよろしくお願いいたします。

## A5

麻しんは過去にワクチン接種を1回ないし2回接種した方でも罹患する方がいますので、是非MRワクチン接種を行ってください。もちろん、それぞれのワクチンをそれぞれに接種しても構いませんが、要するに麻しんの予防接種は十二分に行っていたほうがよろしいと思います。

## Q6 MR

(予防接種の種類)

MR 4期

(相談内容)

アメリカ居住中、1歳時及び6歳時に、計2回のMMRを接種済みのお子さんが帰国し、今回日本でMR4期の対象になりました。接種が必要かどうか、効果や副反応の点で親さんが接種を迷っておられます。日本の法に則って的確な指導はどうしたらよいか、ご指導をお願いします。これからのMR2回法の完成形なので・・・

## A6

麻しんは過去にワクチン接種を1回ないし2回接種した方でも罹患する方がいますので、是非MRワクチン接種を行ってください。過去のMMRで副反応がなければ今回も問題ないと考えられますし、要するに麻しんの予防接種は十二分に行っていただくほうがよいと考えられることから、推奨したいと思います。

## Q7 MR

(予防接種の種類)

MR

(相談内容)

高校3年生のMR3期対象者のかたです。

1歳代で麻疹ワクチン接種し、1週間後に麻疹に罹患しています。ちょうど、麻疹ワクチン接種時が潜伏期間中だったということで、麻疹罹患にしましたが症状が軽かったそうです。その1ヵ月後に抗体検査をし陽性であったことを確認しています。

上記の経過があるのですが、今回のMR3期を接種した方が良いかお尋ねします。

また、接種するのであれば、ワクチンの副作用についても教えていただきたいと思えます。

## A7

麻疹罹患が確かであれば、麻疹ワクチンの接種は不要と思います。ただし、究極的な意見ですが、罹患後の抗体検査はワクチン接種の影響であって、罹患したものは麻疹でなかった可能性はゼロではありません。

今回MRであれば麻疹に加え、風しんも入っているわけですし、たとえ上記の罹患が真の麻疹であったとしても、このケースに限る特別な副作用はないと思えます。

したがって、MR接種の機会があれば積極的に推奨いただきたいと思います。

## Q8 MR

(予防接種の種類)

MR

(相談内容)

MR I 期を接種していない4歳のお子さんがいます。

①MRを今接種した場合、2年後のMR II 期の時期(小学校入学前の1年間)に接種してもいいでしょうか？

②MRワクチンは接種後次の接種まで何年間間をあければよいでしょうか？

よろしくお願ひします。

## A8

一度も MR ワクチン接種をしていないのであれば、まずは速やかに接種してください。ただし、言うまでもありませんが、現在のタイミングは定期接種の第 1 期を外れますので、任意接種として保護者の同意を得てから接種をお願いします。

次回の接種は、是非とも定期接種第 2 期に相当する期間内に確実に接種することを推奨してください。MR ワクチンはご承知のように生ワクチンですから、極端な言い方をすれば、他の生ワクチン同様、同じ種類のワクチンの連続接種であったとしても 27 日以上の間隔を空ければ接種できます。したがって、ご質問の年単位の間隔は問題ありません。

麻しん・風しん撲滅のためにも、是非このタイミングでの接種開始を勧めてください。

なお、この説明で保護者の方が納得できなければ、大学病院小児科の寺本DRに直接受診していただければ、ご説明します(毎週金曜日午前中)。



## Q9 MR 接種至適間隔

(予防接種の種類)

MR

(相談内容)

MRについて1期と2期の2回、もしくは幼少のころに1回接種済みであり、今回3期または4期で接種する場合は2回接種ができ免疫効果は高くなりますが、1期が未接種で、2期、3期または4期で初めて接種する場合は、もう1回任意接種で行うことが望ましいと考えられます。任意接種で行う場合、27日以上間隔をおけば、差し支えないのでしょうか。いつ、どの程度の間隔で行うのが最も効果が高いのでしょうかご教示ください。

## A9

2回以上接種する場合の効果的な至適間隔の検討はなされていませんが、麻しん流行がないグリーンランドのデータでは、初回1回接種でのワクチンの持続効果を見てみると、接種後5年でHI抗体陽性者が95%いたが、16年後では43%に減少していたという報告があります。すなわち、短い間隔で接種する必要はないが、数年以上経過すれば追加接種が望ましいということになります。

お尋ねの件ですが、現在報告されている麻しん患者の中には麻しんワクチンを2回接種していても罹患した者がいるとのことですので、早めに2回以上接種しておきたいお気持ちはよくわかりますが、原則的に言われている生ワクチン接種後27日以上の間隔をあければ次のワクチンが接種できるという最短期間や2-3年以内の追加接種を神経質に考えるほどの根拠はないものと推察されます。

したがって、1期が未接種でも、2, 3, 4期定期接種の時期に適切に接種すれば全体の接種回数がたとえ2回になっても大きな問題はないものと考えられます。もちろん任意で追加接種希望があれば、何回接種しても構いません。要するに2回接種の者でも麻しんに罹患する可能性はないとは言えないが、稀なことではあるということをご認識いただき、冷静に対応されるのがよいと思います。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## 2. 麻しん

## Q10 麻しん

(予防接種の種類)

麻しん

(相談内容)

大学3年生(20歳)で麻疹接種を希望しています。

平成2年5月30日にMMR(麻疹風疹おたふく)ワクチンを接種しており、接種後45日後に熱性痙攣(7月16日)を起こしています。その後、熱性痙攣が3回あり、合計4回起こしていますが、最初の45日目に起こした熱性痙攣がMMRワクチンと何らかの因果関係があるのかと聞かれました。

このお子さんは、もともとの気質的に体質が弱いのか、3種混合(DPT)ワクチンも、2種混合(DT)ワクチンで接種量を減らして接種している経緯があります。

今回、MRワクチンを接種すべきか、麻疹のみのワクチンを選択すべきかを教えていただきたいと思います。

## A10

平成2年のMMR接種後45日の熱性痙攣は麻しん、風疹、おたふくかぜの3つのウイルスの潜伏期間を考慮すれば、ワクチン接種と関連性はないように思います。

熱性痙攣は小児期のみ出現したのであれば、最終発作よりどう見ても2-3ヶ月以上経過(予防接種リサーチセンター発行、予防接種ガイドライン参照、2008年3月改訂版:インターネットでダウンロードできます)しているでしょうし、最近でも発熱で痙攣を起こすことがなければ神経質に考える必要はないものと思われま

す。MRか麻しん単独なのかは熱性痙攣や過去の接種歴で考えるのではなく、過去に真の風しんを罹患していなければMRを、罹患がはっきりしていれば麻しん単独でよろしいと思います。

## Q11 麻しん抗体検査の要否

(予防接種の種類)

麻しん抗体検査とワクチン接種の可否判断

(相談内容)

麻しんワクチンを接種することが必要であれば、**抗体検査を実施した方が良いのでしょうか。**

そして、**抗体検査が陽性だった場合は、ワクチン接種は不要**でしょうか。

保護者の方においては、とても慎重に今回のワクチンに対して検討しています。

回答のほど、よろしくお願いします。

## A11

麻しん抗体検査を行い、その結果でワクチン接種の可否を判断するというのはひとつの考え方です。医療施設職員などにこの方法を用いている施設も多いと思います。ただし、抗体価の数値でどこからは絶対にかからないというカットオフ値については一定の基準はありません。

一方、最近の麻しん患者報告例の内訳を見ますと、ワクチンを1回接種した既往がある人に加え、2回接種した人も罹患している方がいます。

以上より、判定が難しい抗体検査を行うより、接種の機会があれば抗体検査を行わなくても積極的にワクチン接種を実施したほうがよりよい方策と思われます。

# 3. DPT & DT

## Q12 三種混合

(相談内容)

- 1.三種混合予防接種の初回3回を3週間から8週間間隔でなく、1週間間隔で3回接種した場合、副反応と効果について教えてください。
- 2.またこうした場合は、追加などはどのように接種していくべきか方法を教えてください。

## A12

- 1.三種混合予防接種の初回3回を3週間から8週間間隔でなく、1週間間隔で3回接種した場合、副反応と効果について教えてください。

副作用は正規の間隔で初回3回打った場合と替わらないと思います、しかし1週間間隔で3回接種した場合の抗体獲得のデータはメーカーに問い合わせたところなく、しかし基礎免疫はおそらくついているでしょうとのことでした。心配ならば採血し抗体価を測るべきだと思いますが、

- 2.またこうした場合は、追加などはどのように接種していくべきか方法を教えてください。

追加は通常どおり、3回目の接種から1年から1年半で接種してください。

#以上、保護者の方に連絡して納得できなければ、受診してください

## Q13 DPT

(予防接種の種類)

ジフテリア・破傷風・百日咳(三種混合)予防接種について

(相談内容)

DPT I 期初回;1月30日、2回目;3月25日に接種した後、4月25日に百日咳にかかった(血液検査済)。この場合、3回目はどうすればよいのか?DPTをそのまま接種してよいのか。あるいはDT(任意接種)になるのですか?期間はどのくらいとればよいのか?

よろしく願いいたします。

## A13

DTを定期接種扱いでうつ方向ですすめてください  
百日咳が治ったらいいと思います

## Q14 DPT

(予防接種の種類)

三種混合ワクチン(ジフテリア、百日せき、破傷風)につき、お尋ねします。

(相談内容)

17歳 女性 今までに1回も三種混合ワクチンの接種を受けておられず、今回初めてその接種を希望されております。その他の定期予防接種はを受けておられ、特に強い副反応も無かったとの事です。成人に初めて三種混合ワクチンを接種する際、その回数、投与量は小児の場合同じで良いのか？ また副反応の小児との違い等、ご教授願えれば幸いです。

## A14

17歳ですので、成人として回答します。

わが国で現在使用されているDPTワクチンは、成人に対する接種を想定しておりません。また昨今の百日咳の多発までは、成人にDPTワクチンを行ったデータがほとんどありません。

ただし、昨年発表されました東京都立駒込病院小児科部長(ワクチン外来担当、日本のワクチン診療のトップリーダーです)の高山直秀先生らのデータ(予防接種に関する文献集 37:190-192, 2007)によれば、市販のDPTワクチンを成人に接種しても効果の面で問題ないとのことでした。副反応は若干局所反応が強めであったとのこと。なお、このケースでは、DPTを複数回接種した者も、2回目はDTを接種した者もいたようです。

お尋ねのケースは過去に全くDPTの接種がないとのことですので、原則としてはDPTを1回目0.5mL、2回目は3~8週間後(できれば4~6週後)に0.5mL、その12~18ヵ月後に0.5mLという具合に、小児で90ヵ月後までに接種できなかった場合と同様に接種すべきとは思いますが、ジフテリアトキソイドが通常の10歳以上に使用するDTワクチンの約3倍となりますので、副反応が強くなる可能性は否定できません。

したがって、いずれも成人で任意接種扱いで、しかも上記を踏まえて本人および保護者の同意を得た上で、

- ① 上記投与スケジュールにしたがって市販のDPTを3回接種する。
- ② DTのトキソイド量のことを考慮し、1回目は市販のDPTを接種し、2回目以降はDTを0.1mL接種する。すなわち百日咳は1回のみになります。成人の百日咳は致死的ではない可能性も高いので、②の方法もひとつの案です。



よろしくご検討ください。

## **Q15 DPT**

(予防接種の種類)

DPT

(相談内容)

DPTの予防接種で、1期初回を2回は規定どおりに接種したがその後1年程間があいてしまった場合、3回目を行わず、1期追加接種を行うというのでよいでしょうか？

それとも1年あいてしまっても、3回目を接種して、またその1年後に追加接種を行った方がよいでしょうか？

## **A15**

今、初回3回目を接種してください。その後12～18ヵ月後に追加接種を行っていただければよろしいと思います。

## Q16 DPT

(予防接種の種類)

三種混合1期および2期について

(相談内容)

三種混合1期初回を2回目接種後(初回3回目、1期追加は未接種)、2期の対象年齢になってしまった場合

\*平成19年度 予防接種必携(予防接種リサーチセンター発行)の77~78ページに「DTニ混合ワクチン0.1ml 1回の接種では効果が期待できないので、少なくとも2回、できれば3回の接種が望ましい。この場合、1回分は定期接種で接種して局所反応に問題がなければ、2回目以降は0.25~0.5mlに増量して接種した方が免疫獲得状況はよい」とあるが、

<質問>

・0.25~0.5mlの範囲で接種量をどれくらいにするのかは接種医の判断にまかせてよいのか?

何か基準があれば教えていただきたい。

ご回答よろしくお願いします。

## A16

(社)細菌製剤協会の2007年版予防接種に関するQ&A集のP30、Q5およびQ6の回答に従えば、今からDPTワクチンを1回0.5mLずつ3~8週間隔で2回皮下接種し、2回目の12~18ヵ月後に1回追加接種するとあります。最近成人の百日咳も社会問題となっており、できればこのように接種することを推奨します。

ただし、ジフテリアトキソイドが通常の10歳以上に使用するDTワクチンの約3倍となりますので、副反応が強く出る可能性は否定できません。(大きな問題にはならないと思いますが、)

したがって、上記を踏まえて以下を提案します。本人および保護者の同意を得た上で(任意接種)、

- ① 上記投与スケジュールにしたがってDPTを3回接種する。
- ② DTのトキソイド量のことを考慮し、1回目はDPTを接種し、2回目以降はDTを0.1mL接種する。すなわち百日咳は1回のみになります。現在の年齢以降の百日咳は致死的ではない可能性も高いので、②の方法もひとつの案です。
- ③ DPTを1回のみ接種する。(基礎免疫はできると思われます)

もしこの説明で保護者に不安が残るようでしたら、当院小児科、寺本医師の外来(毎週金曜日)に受診していただくよう、ご指示願えれば幸いです。ただし遠方ですので、地域の中核病院受診が現実的かもしれません。

よろしくご検討ください。

## **Q17 DPT**

(予防接種の種類)

DPT

(相談内容)

DPT1 期追加の接種時期についてですが、当市では法での標準的な接種時期で実施しています。年齢が7歳半ぎりぎりのお子さんで1期3回目から1年待っていると過ぎてしまう場合、1期追加の対象者として明記してある「1期初回接種3回目終了後、6月以上の間隔をおいて」の接種をすすめてもよろしいのでしょうか。また、3回目終了後、1年～1年半の期間を標準的な接種期間としている根拠があれば教えてください。

医学的な所見であっても6月以上の間隔で問題は無いとは思いますが、住民周知していく事も検討しているので、よろしくご指導ください。

## **A17**

原則、1年～1年半の期間を標準的な接種期間ですが。  
このようなケースでは6か月以上であれば問題ないと思います。

## Q18 DPT

(予防接種の種類)

DPT

(相談内容)

6歳9か月 女兒

DPT接種歴 I 期初回 1 回目 H20. 4. 15

I 期初回 2 回目 H20. 5. 19

I 期初回 3 回目 H20. 8. 1

本児の兄がDPT接種後に39度の発熱があったとのことで、接種に関して消極的になっていた様子。DPT I 期追加接種の標準的な接種間隔は、I 期初回接種(3回)終了後12月に達したときから18月に達するまでの期間とされているが、本児の場合、それを待つと対象年齢の7歳半を過ぎてしまう。

I 期追加を6か月以上の間隔をあけて7歳半までに規定回数接種することをすすめた方が良いか、追加接種せずに2期のDT接種を待っても良いか。効果や副反応のことを考慮し、今後の接種についてどのように説明したらよいか、教えていただきたい。

保護者は副反応に対して不安に思っており、心配されています。

## A18

標準的な1期追加接種期間は1期初回3回接種終了後12-18月ですので、もしこのタイミングで追加接種を計画すると任意接種になってしまいますが、このQ&A集のP29の表の対象者の欄にも、また日本ワクチン学会編「ワクチンの辞典」P104にも、6月以上間隔をおいて接種するとの記載がありますので、この場合は任意接種にせずに90ヶ月以内に完了することはできます。

副反応について保護者の方がご心配のようですが、ご本人は今回も含め過去3回の接種で発熱やそのほかの副反応がなかったとすれば、さほど神経質にならなくてよいような気がします。追加接種したほうがよりいっそうの予防効果があることは確かです。

しかし、このケースでは現時点では、「予防接種に関するQ&A集 2007年版」P30のQ5:DPTワクチンで規定どおり接種ができず、90ヶ月を超えた場合の対応の回答のなかの「4. 第1期初回3回接種してあるが追加接種を行っていない場合」と同様に考えることもできると考えられます。この場合は基礎免疫ができていると考えられますので、追加接種は実施せず、2期でDTを接種するという方法でもよろしいとは思いますが。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q19 DPT

(予防接種の種類) ジフテリア百日せき破傷風

(相談内容) 1期の完了について 【生年月日】 平成13年3月27日生

### 【三種混合1期の接種歴】

初回1回目:13年10月16日 2回目:13年11月13日 追加:14年9月26日 合計3回

※13年11月以降3回目が接種できなかったのは、インフルエンザに罹患・入院し、集団接種の機会を逃したため。(当時は集団接種、現在は個別接種体制で定期予防接種を実施)

### 【相談内容】

保護者が市役所健康課に来所し、「最近かかりつけ小児科を受診したところ、三種混合1期を4回接種していないので完了していないと考えられる、市役所担当課に相談するようにと助言された」と言われた。本児について、1期が完了していると考えられないのか。1期としてもう一度接種することは適当なのか。その場合は3回目の間隔があきすぎていることについて、医学的理由があってやむを得なかったと考え、定期接種とするのが適当か。

## A19

1期初回3回のうち2回目と3回目の間隔が空いてしまったようですが、現在基礎免疫はできていると考えてよいと思います。したがって、このまま2期のDTを迎える方法もあります。しかし最近の百日咳流行情報も考慮しますと、確かに標準的な接種期間である1期3回目から12～18ヶ月を大きく超えているものの、現時点でまだ生後90ヶ月に達していませんので、任意接種でなく、定期接種としてDPT1期追加接種の取り扱いができます。したがって、本年9月27日までに1期追加接種をされるほうがより確実な免疫が得られると思われれます。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本DR担当)に受診いただくようご指導願います。



## Q20 ジフテリア・破傷風二種混合(2期)

(予防接種の種類)

ジフテリア・破傷風二種混合(2期)

(相談内容)

平成20年度に小学6年生になる児についてです。

基礎免疫はできています。

平成20年1月に足の裏のけがをしたため、1月と2月の2回ジフテリア・破傷風二種混合ワクチンを任意接種しました。今年度の接種について、以下の2点についておたずねします。

1. 定期の予防接種として、ジフテリア・破傷風二種混合ワクチンを接種する必要がありますか。
2. 接種した場合に何か問題となることがありますか。

## A20

1.定期の予防接種として、ジフテリア・破傷風二種混合ワクチンを接種する必要がありますか。

1月に接種したのならば必要ないです。

2.接種した場合に何か問題となることがありますか。

副作用としては接種部位の腫脹程度とおもいますが、発熱などみとめるかもし  
れません

## Q21 DT 追加

(予防接種の種類)

- ・二種混合予防接種(ジフテリア・破傷風)

(相談内容)

- ・相談対象児は、平成19年3月22日生、現在小学校6年生の男児です。三種混合の接種履歴は、次のとおりです。一期初回は平成10年1月23日、平成10年2月26日、平成10年3月20日に、一期追加は平成11年5月21日に定期接種として実施済みです。その後、外国で生活されるということで、三種混合は5回接種するということが渡航条件にあるため、任意で平成16年2月9日に三種混合で5回目の接種を受けています。

現在、瑞穂市では二種混合は、小学校6年生(ただし、11歳以上13歳未満の者で接種を希望する者は可)を対象として実施しています。対象児の保護者あてに、当該年度の4月に個別に接種勧奨の通知がしてあり、それをもとに相談対象の男児が接種を受けようと医療機関を受診されました。医療機関にて、5回目の任意での三種混合の接種履歴を確認され、今回二種混合を定期接種として実施してよいものかを市に相談してきました。

- ・接種が適当であるかどうか、接種が適当であればそれに伴うリスク等考えられるものがある場合は教えていただきたいです。お忙しいところ、お世話になります。よろしくお願いいたします。

## A21

今回のケースでは通常通り接種した場合より1回多くDPTを接種しておられますので、通常より感染防御抗体レベルは高く保たれていることが想像されます。

しかし、せっかく追加接種の機会があるのですから、前回までのDPTで特別な副反応がなかったのであれば、接種推奨して構いません。ブースターでより確実に長期間効果が持続する抗体レベルの獲得が得られるはずですが、追加のDTは0.1mLであり、より副反応が出にくくなるように配慮されています。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q22 DT

(予防接種の種類)

二種混合の接種方法について

(相談内容)

現在、小学校6年生のお子様ですが、乳幼児期に三種混合を1回も接種していません。定期接種として二種混合を今年接種していただきますが、1回のみの接種では、効果があまり期待できないと思います。

定期接種後、任意で何回かを接種していただいた方が効果が期待できると思いますが、理想的にはどのような接種方法、接種量がよいのか教えていただきたいと思います。

## A22

12歳ですので微妙ですが、副反応のことを考慮して成人としての知見から回答します。

わが国で現在使用されているDPTワクチンは、成人(生後91ヶ月以上)に対する接種を想定しておりません。また昨今の百日咳の多発までは、成人にDPTワクチンを行ったデータがほとんどありません。ただし、昨年発表されました東京都立駒込病院小児科部長(日本のワクチン診療のトップリーダー)の高山直秀先生らのデータ(予防接種に関する文献集 37:190-192, 2007)によれば、市販のDPTワクチンを成人に接種しても効果の面で問題ないとのことでした。副反応は若干局所反応が強めであったとのこと。なお、この報告では、DPTを複数回接種した者も、2回目はDTを接種した者もいたようです。

お尋ねのケースは過去に全くDPTの接種がないとのことですので、DTⅡ期分(0.1mL)をまず定期接種分として行っていただくことを前提として、このDTで副反応が少なければ以下はすべて任意接種として

- (1) 百日咳の確かな既往歴がある場合:DTの3~8週間後DTに0.5mL、その12~18ヵ月後にDT0.5mLというスケジュールで接種する。
- (2) 百日咳の既往がはっきりしない場合:DTの3~8週間後DPT、その12~18ヵ月後にもう1回DPTというスケジュールで接種する。

などが提案できます。小児でない百日咳は致死的ではない可能性も高いですが、最近の流行動向を勘案して接種したほうがよろしいのではないかと考えます。また定期接種のDTから始めないで、はじめからDPTを少し減量(0.3mL)で通常通りのI期と同様なスケジュールで接種していくという手もあるでしょう。いずれにせよ、百日咳のケアは考慮に入れたほうがよろしいと思います。

(社)細菌製剤協会の2008年版予防接種に関するQ&A集のP35-40のQ&Aもご参考にしてください。

よろしくご検討ください。

## Q23 DT

(予防接種の種類) DT2期

(相談内容)

①

小学校6年生で、乳幼児期に1回もDPTを接種していないお子さんは、どのように、どんな回数・間隔・接種量で接種していけばよいのでしょうか？以下のA・B2つの場合の回答をお願いします。

A: 自費でDPTを打つ場合

B: 1回はDT(公費)で打ちたい場合

②10歳以上の人はジフテリアのアレルギー反応を防ぐためにDT0.1mlにしていると本に書いてありますが、10歳以上の人(小学校6年生)にDPT0.5mlで接種することは問題にはならないのでしょうか？

よろしくお願ひ致します。

## A23

乳幼児ではありませんが、昨今の百日咳流行情報を勘案すれば、いくら制度上DTを定期の枠組みで接種できるといってもまず最初はDPTを接種したいところです。それを考慮したうえで、今回は12歳ですが、成人とほぼ同様に考えて以下をお示しします。

わが国で現在使用されているDPTワクチンは、90ヵ月以上の年齢での接種を想定しておりません。また昨今の百日咳の多発までは、成人にDPTワクチンを行ったデータがほとんどありません。ただし、昨年発表されました東京都立駒込病院小児科部長(ワクチン外来担当、日本のワクチン診療のトップリーダー)の高山直秀先生らのデータ(予防接種に関する文献集37:190-192, 2007)によれば、市販のDPTワクチンを成人に接種しても効果の面で問題ないとのことでした。副反応は若干局所反応が強めであったとのこと(重篤ではない)。なお、このケースでは、DPTを複数回接種した者も、2回目はDTを接種した者もいたようです。

お尋ねのケースは過去に全くDPTの接種がないとのことですので、原則としてはDPTを1回目0.5mL、2回目は3~8週間後(できれば4~6週後)に0.5mL、その12~18ヵ月後に0.5mLという具合に、小児で90ヵ月後までに接種できなかった場合と同様に接種するべきとは思いますが、ジフテリアトキソイドが通常の10歳以上に使用するDTワクチンの約3倍となりますので、副反応が強くなる可能性は否定できません。社団法人細菌製剤協会

発行の「予防接種に関する Q&A 集 2008 の P36-37 の Q5&A も参考にしてください」

したがって、以下の 2 つを提案します。いずれも本人および保護者の同意を得た上で、

- ① 上記投与スケジュールにしたがって市販の DPT を 3 回接種する。(いずれも自費任意接種)
- ② DT のトキソイド量のことを考慮し、1 回目は市販の DPT を接種し、2 回目以降は DT を 0.1mL 接種する。すなわち百日咳は 1 回のみになります。成人の百日咳は致死的ではない可能性も高いので、②の方法もひとつの案です。(DPT は自費任意接種、2 回目、3 回目の DT のうちタイミングをうまくとれば 2 回目は定期接種の枠組みでできるはずです。)

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q24 DPT DT

(予防接種の種類)

百日せきに罹患した方の DT について

(相談内容)

DPT1 回目を接種後 (H20.5.13 接種) に百日せきで入院し、2 回目の接種を DT の接種で希望されてみえる方がいます。

この場合、接種回数は DT を1回接種後は 12～18ヵ月の間をおいて DT の追加接種でよろしいのでしょうか？

ガンマグロブリンの使用の確認ができておりませんが、ガンマグロブリンを使用していた場合、6 ヲ月の間隔をあけて、上記のような接種の仕方をすればよろしいのでしょうか？ご教示をお願いします。

## A24

患者の年齢、性別およびどこからの依頼なのか。どこに入院して診断が着いているのか。グロブリン治療の有無もかいてください。

その辺を詳しく書いていただけないでしょうか？

これでは答えられません

# 4. 日本脳炎

## Q25 日本脳炎

(相談内容)

平成12年1月15日生まれ(8歳)の男児。

日本脳炎1期初回 平成15年6月16日 平成15年7月8日に接種。

その後、積極的勧奨見合わせに入った為、1期追加は未接種のまま対象年齢を経過。

- 1.1期追加を未接種のまま、来年度2期の対象となるが、それを接種した場合、日本脳炎1期追加の扱いとなるのか。2期の扱いとなるのか。
- 2.母子健康手帳の予防接種欄には1期追加を空欄にして、2期に押印するのか。
- 3.1期初回の2回接種した基礎免疫は今現在も有効とみなして良いのか。  
以前のガイドラインには、「1期初回2回接種後数年経過した場合はやり直し・・・」というような事が書いてあったと思いますが、現在のガイドラインにはありません。

## A25

予防接種に関する Q&A 集 2006 P34 より

基礎免疫のうち、初回接種を2回受けたあと5～6年経過した場合。

2回接種していれば免疫がまず維持されているので追加として1回受けてください。

その後の追加も確実に受けてくださいとあります。

まず今回、1期追加免疫として1回接種し、小学校卒業前(12歳時)に2期を接種すれば良いように思われます。

しかし、1期追加免疫は自費でということになりますが



## Q26 日本脳炎①

(予防接種の種類)

日本脳炎について

(相談内容)

平成13年2月5日生まれのかたです。

日本脳炎1期初回を昨年の①11月7日②11月16日に2回接種しています。

8月5日で7歳6ヶ月に達してしまうため、追加の時期が約8ヶ月しか空いていません。

1期追加は、1期初回終了後おおむね1年おくとありますが、初回からの間隔がどれくらい空いていれば開始できるのかは、文献を調べても記載されたものはありませんでした。

1期初回から追加接種を開始しても良い期間を教えてください。

できれば抗体の効果や医学的所見を踏まえて教えてください。

よろしくお願いします。

## A26

まず、予防接種ガイドライン2008年3月改訂版によれば「概ね1年後」の定義は「11～13ヵ月後と解する」とあります。したがって杓子定規に予定を組めば90ヶ月を超えてしまいますね。

古いデータですが1970年に北海道北部の学童(日本脳炎非汚染地域)を対象にした研究によれば、初回2回接種で1ヵ月後にほぼ感染防御レベルの中和抗体が獲得できる。しかしほぼ1年で、そのレベルがギリギリ維持できない程度に低下してしまうため「概ね1年後」に追加免疫を行うと、約5年間程度レベルを維持できる。などの知見から現在の接種方法が推奨されていると考えられます。

お尋ねの点ですが、おそらく現在感染防御レベルは十分に保たれているというだけで、現時点で3回目の接種を行っても、医学的には問題はないものと思われます。もともと不活化ワクチンですので、究極的な接種可能の間隔は1週間以上であればよいと思います。ただし、現時点で接種すると、基礎中和抗体価が高めで維持されて状態であるためにブースター効果としても大きいのか、またかえってタイミングが早いためにブースター効果がよくないのかのデータはわれわれが調査した範囲ではみつきりませんでした。

最後は行政的な判断ですね。上記のことをご説明いただいて、保護者の方がそれでも任意接種でない方法で強く希望されれば、貴保健センターのご判断だと思います。私共の立場では「概ね1年」の定義を外れても行政的にもよいとは言えないです。

なお、この説明で保護者の方が納得できなければ、大学病院小児科の寺本DRに直接受診していただければ、ご説明します(毎週金曜日午前中)。

## Q27 日本脳炎②

(予防接種の種類)

日本脳炎について

(相談内容)

来年の3月で7歳6ヶ月に達するが、今回1期初回を始めたいというかたがありました。

8月に1期初回2回接種したとしても、1期追加が約6ヶ月しか空きません。

この場合、おおむね1年をあけるという間隔にはならないのでしょうか。

万一、1期追加が任意接種となるのであれば、今のADEMの副反応のことも考慮すると、勧めても良いのか 心配です。(できれば定期接種として接種してあげたいのですが、間隔が短いように思うため接種できないと 思われます。)

このかたは②-①-①(3~4年後)のパターンで接種できればと思いますが、適当と思われる接種パターンも教えていただきたいと思います。

## A27

もう1点のご質問と同様の回答になりますので、そちらをまずご参照ください。

この方の接種は、今回1回目、1-4週後に2回目、概ね1年後(11-13ヶ月後に任意で)、その後は小学6年生の時くらいに2期接種が標準的でしょうか。

こちらも最後は行政的な判断ですね。上記のことをご説明いただいて、保護者の方がそれでも任意接種でない方法で強く希望されれば、貴保健センターのご判断だと思います。私共の立場では「概ね1年」の定義を外れても行政的にもよいとは言えないです。

なお、この説明で保護者の方が納得できなければ、大学病院小児科の寺本DRに直接受診していただければ、ご説明します(毎週金曜日午前中)。

## Q28 日本脳炎

(予防接種の種類) 日本脳炎

(相談内容) 1 期初回 1 回目のみ接種、その後 3 年間接種なし、今後の接種の仕方について

【生年月日】 平成 14 年 4 月 2 日生

【日本脳炎 1 期の接種歴】

初回 1 回目:17 年 5 月 27 日のみ

※以降接種しなかったのは、郡上市が積極的勧奨を差し控えたため

【相談内容】

八幡保健センター保健師が保護者に、「かかりつけ小児科を受診したところ、日本脳炎 1 期が完了していないので接種について検討するように助言された。今後はどのように接種するのか」と相談を受けました。

本児について、今後の望ましい接種スケジュールについて教えてください。

郡上市は、接種間隔について医学的理由がなく法を守れていない場合を任意接種とし、法の定める年齢範囲内(この場合生後 90 ヶ月まで)であればその費用を公費で負担しています。

## A28

(社)細菌製剤協会発行の「予防接種に関する Q&A 集 2007」の p36 にありますように、1 期初回 1 回のみで数年が経過した場合に相当すると思います。この場合現時点から 1～4 週間隔で 2 回接種し、おおむね 1 年後に追加接種する方法でよろしいと思います。現在、生後 76 ヶ月ですから、このようなスケジュールでも追加接種を 90 ヶ月以内に終えることができ、任意接種扱いにしなくて済むと思います。

ただし、言うまでもありませんが、積極的な勧奨はいまだ差し控えられていることですから、流行地への渡航や蚊に刺されやすい環境にある場合などで、保護者の希望が強い場合に所定の手続きの上実施してください。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q29 日本脳炎

(予防接種の種類)

日本脳炎

(相談内容)

対象児は平成8年10月25日生まれで、現在12歳です。

日本脳炎を1期初回、追加ともに未接種であるが、現在2期対象年齢であり、保護者は接種を希望されています。もちろん2期の1回では免疫がつかないことは理解されており、自費接種となることは了承されています。

日本脳炎のワクチン接種を12歳から始めることについて、特に問題はありませんでしょうか。そして問題がないということでしたら、接種は1期と同様に6～27日の間隔で2回接種し、その後1年あけて追加接種という間隔でよろしいでしょうかご教示ください。

## A29

まず、今回初めての接種をこのタイミングで開始することに関しては問題ないと思います。特に保護者が定期接種を外れる分について、任意接種でも希望されているのであればよろしいと思います。ただし、言うまでもありませんが、現行のワクチンでは積極的な勧奨はいまだ差し控えられている状態ですから、流行地への渡航や蚊に刺されやすい環境にある場合などが一般的な接種対象となりますので、その点を保護者に再確認してからに所定の手続きの上実施してください。

古いデータですが1970年に北海道北部の学童(日本脳炎非汚染地域)を対象にした研究によれば、初回2回接種で1ヵ月後にほぼ感染防御レベルの中和抗体が獲得できる。しかしほぼ1年で、そのレベルがギリギリ維持できない程度に低下してしまうため「概ね1年後」に追加免疫を行うと、約5年間程度レベルを維持できる。などの知見から現在の接種方法が推奨されていると考えられます。したがって、ご提案の方法で、約5年間は予防効果が持続すると思われます。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本DR担当)に受診いただくようご指導願います。

# 5. その他

## **Q30 BCG**

(予防接種の種類)

BCG

(相談内容)

現在4歳3か月でBCGが未接種です。任意接種希望ですが、ツベルクリン検査後結果を見てBCGを接種すべきでしょうか、それとも、ツベルクリン検査なしで、BCG接種をしてよろしいですか。教えてください。(BCG接種は医療機関で個別接種をしています)

## **A30**

ツベルクリン反応は必要ないと思います。仮に結核既感染であった場合、コッホ現象として強い局所反応が出る可能性はありますが、重篤反応でないとされています。(WHOの報告:2007年版予防接種に関するQ&A集 P64 参照)任意接種希望であれば接種して構いません。

### **Q31 未熟児の BCG**

出生時体重＝1,060g 3ヶ月の乳児。現在体重2,400g 母親がBCG接種を希望して来院するも、腕もまだかなり細く、6ヶ月までに接種すれば大丈夫だから、もう少し待ちましょうとお話ししたところ、母親が納得されなかったとのことでした。

### **A31**

先生のお考えどおりで結構です。今一度ご説明されても納得されなければ、金曜日に大学小児科の寺本先生に受診をお勧めください。

## Q32 ポリオ

(予防接種の種類)

ポリオ

(相談内容)

2歳9か月児

5/12 ポリオ2回目接種。

5/13 朝に嘔吐、昼に下痢

5/14 受診し、胃腸風邪との診断を受ける。かかりつけ医は24時間以内の嘔吐、下痢のため再投与が必要との判断。

30分以内の嘔吐は再投与が望ましいとされているが、24時間以内の嘔吐、下痢の場合も再投与が必要であるか。今までの研修会などでは、下痢によってポリオワクチンの効果に関係はないと言われているが、このケースの場合は再投与が必要となるのか教えていただきたい。

(ただし、行政としては、予防接種法に基づく定期の予防接種としてポリオをすでに2回接種をされているため、医学的理由により再投与が必要な場合は、任意接種として対応することになると思います。)

## A32

基本的には再投与の必要はないと考えます。30分以上体内に有れば口腔粘膜からもポリオワクチンの増殖(感染)すること、嘔吐、下痢の症状もポリオの副作用である可能性があります。

いずれにしても再投与の必要はないと思います。



## Q33 新生児百日咳

(予防接種の種類)

百日咳

(相談内容)

岐南町保健センターを通じた一般の方からの問い合わせです。

町内に在住の20代男性が医療機関から百日咳と診断された。男性には生後5日の子供がおり、出生後現在までに何回か産院に子供を見に行っている。百日咳との診断を受け、感染を心配した母親が小児科に百日咳ワクチンの任意接種を依頼しに行ったところ、「感染の可能性がある、副反応が大きく出る可能性があるため、対応できない。予防接種の専門家に対応依頼べき」と言われたとのこと。母親としては子供への感染が心配であるので、接種の必要性等について御教示をお願いいたします。

## A33

生後5日目で予防接種を実施しても十分な効果が得られない可能性が高いと思われます。また百日咳の暴露後予防としての予防接種の有効性もデータはありません。したがって、現時点での予防接種は推奨できません。

今後父親と接触を避ける(同室でマスクなしでの接触は禁止)ことと、お子さんをよく見ていただいて、少しでも様子がおかしければ医療機関を受診してください。

## Q34 DPT と MR

内容>

4月に1歳になった女の子アレルギーなし

<経緯>

4月15日に三混1回目接種 体調の変化なし

5月10日に三混2回目接種

10時頃に予防接種を受け、夕方7時頃に腹部、背部全体の湿疹に気づく。発熱は認めず、食欲もあり、機嫌もよい。

接種後2日目 四肢にもポツポツと湿疹を認める。

接種部位は赤く1cm程度のしこりができている。

接種後3日目 接種医療機関に受診。湿疹は消退してきているので、経過観察となる。

<質問>

1. 今後、三混の3回目、追加の接種をどのようにすすめればいいですか？
2. まだ、MRを接種しておらず、母の希望としては、今月中に接種したいと考えているのですが、湿疹が消失していれば、接種をしてもいいですか？

以上、2点についてご回答を頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

## A34

1. 個別接種だそうで、接種のするか否かは医師の判断です。開業医で無理と判断されれば、予防接種センターにて施行します。

抗ヒスタミン剤の内服による前処置、ステロイド軟膏の塗布などで接種するケースも有りますが

2. MRからどうぞ希望どうりしてください。

## Q35 MR、DPT

(予防接種の種類)

MR、DPT

(相談内容)

1歳2ヶ月の女兒に対し、MR接種後、17日の間隔で、DPTを接種してしまいました。

「予防接種リサーチセンター」発行の予防接種必携には、接種間隔の定められた理由として、「異なる種類のワクチンの場合は、先に行ったワクチンの副反応の出る可能性のある時期を外して、次のワクチンを接種するように配慮されている。生ワクチンの場合は4日～3週間の間なので、余裕をみて、27日と決められている。」とありました。

接種間隔が、規定より10日間短い場合、上記の問題以外に、身体的な影響や予防接種の効果について問題はあるのでしょうか。

ご指導いただきますようお願い申し上げます。

## A35

当方で調査した範囲内では、特に問題ないと思われます。確かに生ワクチンの場合、実際に暴露された場合と同様に潜伏期間内は発症の可能性があるので、27日以上空けるのが望ましいのですが、今回次に接種したのが生ワクチンでないこともあり、神経質になる必要はないと思います。現にMRも2種類の生ワクチンであり、かつてのMMRは3種類であったわけで、海外などでは多数のワクチンを一度に接種することもあります。

副反応、身体的影響、効果のいずれも問題ないと考えて差し支えありません。もしこの説明でご納得されないようでしたら、金曜日の小児科、寺本医師の外来に受診していただくよう、ご指示願えれば幸いです。

## Q36 外国人ポリオとDPT

(相談内容)

今回、外国(東南アジア)から1歳7ヶ月のお子さんが転入され、今後の予防接種をどのようにしていけばよいかをおしえていただきたくメールさせていただきました。

接種歴は ポリオ 3回接種のうち2回済み

DPT 3回接種のうち2回済み

BCG なし

インフルエンザb 1回

B型肝炎 1回

## A36

これでは情報が足りなくて答えがいろいろな場合が有ります。もう少し情報を補うか大学病院を予約を取り受診させていただくか、してください。

## Q37 HBとおたふく

(予防接種の種類)

HB ワクチンおよびおたふくかぜワクチン

(相談内容)

医学部看護学科学生からの相談です。

- ① 看護師経験が数年ある学生です。昨年まで職場で毎年 HB(+)だったが、今回初めて(-)になり、そのようなことが起こりうるのか？ワクチン接種をした方がよいか？
- ② 小児の時おたふくかぜに罹患して髄膜炎をやったことがあると親から聞いているが、今回の抗体検査(IgG-EIA) (±)だったが、予防接種が必要か？

## A37

① HB ワクチン

⇒昨年まで HB(+)(すなわちHBs 抗体陽性ということでしょうか?)であったとのことですが、自然獲得したHBs 抗体は通常は消えませんが、ワクチン接種により抗体獲得した場合は、数年以上経過すると検査しても陰性化する場合があります。この場合、たとえ陰性化しても、一生 B 型肝炎に罹患することはないと一般には言われておりますので、ワクチン接種は必ずしも必要ありません。しかし本人が陰性結果のまま勤務するのは気持ち悪いと言う場合が多いため、現実には 1 回のみ接種することがほとんどです。この場合、3 回打たなくて 1 回でもブースター効果でぐんと抗体価が跳ね上がります。接種後 1 ヶ月以上経過した時点で再検査すれば確認できます。

② おたふくかぜワクチン

⇒小児期のおたふくかぜは確定診断でなかった可能性は否定できません。今回の結果を考慮し、現時点でワクチン接種したほうがよろしいと思います。

## Q38 日本脳炎、BCG、ポリオ

(予防接種の種類)

日本脳炎、BCG、ポリオ

(相談内容)

(1) 6歳女児

:1年前に日本脳炎ワクチンを1回だけ(1期初回の1回目のみ)接種したとのことです。その後の接種を忘れていたそうなのですが、1期初回2回目と1期追加をどれくらいの間隔で接種するとよいでしょうか？

(2) 3歳男児

:しばらく海外で生活していたとのことです。BCGを接種していないとのことです。公費で接種する方法があるのでしょうか？もしくは私費になるのでしょうか？その場合、大学病院で接種可能でしょうか？手続きはどうしたら良いのでしょうか？

(3) 3歳男児

:しばらく海外で生活していたとのことです。(2)と同一人物です)ポリオの不活化ワクチンを海外で接種したそうです。日本の生ワクチンを接種するように保健センターで言われたそうです。どのように指導したら良いでしょうか？来院時、不活化ワクチンの接種回数は不明(おそらく3~4回)とのことでした。

## A38

1) 今年1回接種して来年追加を接種するか、今年2回接種するどちらでもいいです

2) 公費で接種は有りません。

予約を入れていただければ接種します

3) 接種しなくても抗体は90%以上獲得されていると思われます。

保健センターの誰が答えたのか教えてください。

ただし、確実に腸管局所免疫をつけたければ、集団接種の機会に接種してもいいと思います。

### Q39 外国での接種後の対応

(予防接種の種類)

フィリピンで接種歴がある児の今後の予防接種の進め方について助言をお願いします。

(相談内容)

平成18年9月25日生まれの女兒です。接種歴は以下のごとくです。(本人メモより作成)

Hepatitis	1	11/07/2007
〃	2	12/11/2007
DPT 10Tap	1	12/11/2007
〃	2	1/22/2007
Poliomyelitis 11PV	1	12/11/06
〃	2	1/22/2007
H.Influenzge	1	12/11/2007
〃	2	1/22/2007

今後、どの予防接種をいつ勧めていけばよいでしょうか。よろしく申し上げます。

### A39

DPT は 12/11/2007 と 1/22/2008 の 2 回接種として回答します。6 月中にもう一度接種し 1 年から 1 年半後に追加してください。これで 1 期修了です

MR を早急に DPT のつぎに接種してください。

ポリオは不活化ワクチンを接種していますが、回数が足りません。  
そのため日本では生ワクチンを 2 回接種してください。

H.Influenzge は現在、日本では接種できません。

## Q40 1歳8月海外長期移住

(予防接種の種類)

海外(タイ)に3年程度滞在予定の際、接種が勧奨されるワクチンについて

(相談内容)

県民の方からの問い合わせです。

仕事の関係でタイに3年程度滞在の予定。1歳8か月の子供と、親にはどのような予防接種が勧奨されるか御教示ください。また、8月上旬出発予定とのことで、接種勧奨されるワクチンの接種間隔、タイでの追加接種の必要性の有無等について注意すべき点があれば併せて御教示ください。

子供の定期予防接種歴

BCG、ポリオ、MR(1期)、DPT(1期初回・追加)

## A40

あと、日本脳炎ワクチン(2回)と水痘(1回)、おたふくかぜ(1回)、B型肝炎ワクチン(3回)ぐらいを接種していけばいいとおもいます。

また、狂犬病(3回)とA型肝炎(2-3回)も必要と思われます。

出発までに間がありませんのですべてのワクチンを日本で接種しておくのは不可能です。現地に行かれてからの期間も含め、あわてずに接種してください。投与計画や間隔は接種医療機関でご相談(場合によっては大学病院受診も可能)したほうがわかりやすいでしょう。順番としては日本脳炎と狂犬病を優先することをお勧めします。



## Q41 接種可能年齢の解釈

(予防接種の種類)

予防接種法による定期の予防接種の接種対象年齢の解釈について

(相談内容)

予防接種法施行令中の接種対象年齢には、「〇〇月に至るまでの間にある者」「〇歳以上×歳以下」「達する日」などのいくつかの表現があります。「予防接種の手引き(近代出版)」によれば、「〇〇に達するまで」=「〇〇未満」であるとの表記があります。「至る」の解釈については、手引き中にも、通知等でも表記してあるものを探すことができませんでした。

(質問)

「至るまで」や「至るまでの間」はどのような解釈になるのでしょうか？

例えば、平成 20 年 1 月 1 日生まれの子が、定期予防接種の麻しん(1期)を接種しようとする場合、「生後 24 月に至るまでの間」という表現は、厳密には何年何月何日までとなるのでしょうか？

## A41

**予防接種ができる期間は「接種対象年齢の前日から接種終了年齢の前々日まで」**です。

(民法 143 条(暦による計算)を準用した「年齢計算ニ関スル法律」に基づく)

御質問の例によれば、平成 20 年 1 月 1 日生まれの子が、定期予防接種の麻しん(1期)を接種しようとする場合、生後 12 月から生後 24 月に至るまでの間にある者が対象となりますので、平成 20 年 12 月 31 日から平成 21 年 12 月 30 日までに接種する必要があります。

予防接種関係法令では、接種対象者は原則として〇歳(月)以上、〇歳(月)未満で規定してあります。したがって「〇月に至るまでの間にある者」=「〇月未満の者」=「満〇月になる日の前々日まで」という解釈でよろしいかと思えます。

## Q42 皮膚消毒薬

(予防接種の種類)

不特定

(相談内容)

エタノール、ヒビテン、イソジン過敏のお子さんに対して、接種部位の消毒は何を使えばよいのでしょうか？

ちなみに、上記の3つの薬品過敏があり、水道水で接種部位の消毒をした、というケースを聞いたのですが、それは消毒の意味があるのでしょうか？

教えてください。

## A42

上記消毒薬が使用できないのであれば、塩化ベンザルコニウム(商品名、オスバン、ジアミトールなど)を使われてはいかがでしょうか？これであればまず皮膚刺激性はないと思われしますのでお試しください。

消毒薬を全く使用しないのであれば、消毒という言葉は意味がありませんというか使えません。しかしワクチン接種などの皮下注あるいは筋注であれば、滅菌精製水で清拭するなどでもおそらく問題ないと思われませんが、水道水は地域により差もありますし、良いとは言えません。手洗いと同じように、石鹸と流水で洗う方がまだよいかと思われます。

## Q43 溶連菌感染後の予防接種タイミング

(予防接種の種類)

溶連菌感染後の予防接種について

(相談内容)

お忙しいところ申し訳ありませんがご指導お願いします。  
表記のように溶連菌の感染後、どのくらい経ったら予防接種を開始したらよいか、教えてください。咽頭の感染症の場合と、それ以外の部位の溶連菌感染の場合、どのような手順で治癒を見極め予防接種を開始したらよいのでしょうか。ちなみに当市は、委託医の混乱を避けるために目安として、他の感染症の場合も別紙のとおり扱っていただくようにしています。この目安に対してもこれでよいか、ご指導お願いします。

## A43

生ワクチン接種を感染に見立てれば、いずれも 4 週間は間隔を空けますので、実際の感染の場合もこれに準じて考えればよいと思います。

すなわち、感染症を発症し、順調な経過で治癒過程をとり、臨床症状が消失すれば、発症後 4 週間を目安に接種可能とするという判断です。お見せいただきました表は素晴らしい出来とは思いますが、シンプルに発病の場合も、発病者との濃厚接触の場合もいずれも「1 ヶ月後」とされれば、業務上も簡便と思いますがいかがでしょうか？

## Q44 外国人来日者接種計画

(予防接種の種類)

麻疹風疹混合 3種混合追加 ポリオ

(相談内容) 今後の予防接種の方法について

生年月日: H19 5月25日 1歳4ヶ月 パキスタンのお子様

予防接種歴

BCG&POLIO 25 5 07

DPT PORIO I 7 aug 2007

DPT PORIO II 17 sep 2007

DPT PORIO III 18 oct 2007

Hepatitis B I 7aug 2007

Hepatitis B II 17sep 2007

Hepatitis B III 18 oct 2007

HIB I 7 aug 2007

HIB II 17 sep 2007

HIB III 18 oct 2007

Measles 11feb 2008

Chickenpox 4 jul 2008

## A44

まず、杓子定規なお答えをすれば、海外で接種を受けられたものは日本の予防接種法の定期接種のスケジュールの範囲内で受けられたものではない、すなわち無関係と考えるのが、わが国の厚生労働省の基本的な考えです。

しかし、現実的にはすでに接種されているワクチンについては効果を発揮していると思われるので、わが国の定期接種の範囲では、以下の提案をしたいと思います。

- (1) DPT: I 期初回が済んでいますので、最後に接種した2007/10/18から12~18ヶ月(今から約半年以内)で、I 期追加 DPT をお勧めします。
- (2) BCG: すでに接種済ですので不要です。
- (3) ポリオ(経口): おそらく不活化ワクチンを、すでに DPT と同時に 3 回接種されています。スケジュールどおりですと DPT の追加接種と同時にもう 1 回接種となりますが、わが国では同じワクチンがないため、経口生ワクチンでの追加接種をお勧めします。
- (4) MR: すでに麻しんのみは 1 回接種済ですが、通常通り MR を第 1 期、第 2 期に受けてください。
- (5) 日本脳炎: ご承知のように 2005 年 5 月 30 日以降、積極的勧奨が中止されていますが、今後パキスタンに帰国する可能性も考慮し、希望があれば定期接種として接種をしてく

ださい。

Hib ワクチンについては初回免疫が 3 回終わっており、現在のタイミングで追加 1 回が望ましいとは思いますが、現在わが国では使用できません。どうしても使用するとなると、個人輸入するしかありませんが、現実的には難しいと思われます。わが国での発売は来年以降になると思われますし、接種スケジュールの正式な公表もされていません。わが国で正式に使用できるようになるまで待ってもよろしいと思われます。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q45 帰国後のワクチン接種計画-1

(予防接種の種類)2002/7/13 生まれ 米国より帰国後のスケジュール

(相談内容)

アメリカから転入してこられたご兄弟なのですが、これから日本でどのように接種したらよいかご指導お願いします。なお、接種歴については原語での記入につき、別紙 FAX でお送りしますのでご参照ください。お忙しいなか、よろしく申し上げます。

DTaP:2002/9/13, 2002/11/19, 2003/1/13, 2003/10/15, 2007/5/17

HIB:2002/9/13, 2002/11/19, 2003/10/15

IPV(不活化ポリオ):2002/9/13, 2002/11/19, 2003/7/23, 2007/5/17

Hepatitis B:2002/9/13, 2002/11/19, 2003/10/15

MMR:2003/10/15, 2007/5/17

Varicella(水痘):2003/7/23, 2007/5/17

PCV(肺炎球菌):2002/9/13, 2002/11/19, 2003/1/13, 2003/7/23

## A45

まず、杓子定規に言えば、海外で接種を受けられたものは日本の予防接種法の定期接種のスケジュールの範囲内で受けられたものではない、すなわち無関係と考えるのが、わが国の厚生労働省の基本的な考えです。

しかし、現実的にはすでに接種されているワクチンについては効果を発揮していると思われるので、わが国の定期接種の範囲では、以下の提案をしたいと思います。

- (1) DPT:DTaP はわが国の DPT に相当しますから、すでに I 期初回、追加とも済んでいることとなります。今後は II 期 DT に進んでください。
- (2) BCG: 米国では BCG は接種されません。わが国では生後 6 ヶ月以内(特別な事情の場合は 1 年以内)が定期接種ですので、もうその範囲では接種できません。ご希望があれば任意接種となりますが、このタイミングでの接種の効果も考えると、わが国でも必ずしも絶対接種すべきとまでは言えません。
- (3) ポリオ(経口): 不活化ワクチンとしてのスケジュールは終わっていると思いますので、接種しなくてよいと思います。ただし、希望があれば定期接種の範囲内で経口生ワクチンを 1 回追加接種しても構いません。
- (4) MR: MMR として 2 回接種していますので、接種しなくてもよいと思います。ただし、希望があれば第 2 期として 1 回接種しても構いません。第 3 期、第 4 期は今のところこのお子さんがその時期を迎えたときのスケジュール未定です。
- (5) 日本脳炎: ご承知のように 2005 年 5 月 30 日以降、積極的勧奨が中止されています。今後、岐阜周辺で過ごされるのであれば、今後の厚生労働省の指示を待つてよろしい

と思います。ただし今後の渡航予定などから希望があれば定期接種として接種をしてください。

HIB ワクチンについては初回免疫が 3 回終わっており、すでに 6 歳に達しておられますので、今後の接種は不要と思います。なお、このワクチンは現在わが国では使用できません。わが国での発売は来年以降になると考えられますし、接種スケジュールの正式な公表もされていませんが、おそらく今後も不要と思います。

Hepatitis B については HBs 抗体検査をしてみないと何ともいえませんが、おそらくこの年齢では抗体を獲得している可能性が極めて高いと思います。その場合は今後の追加接種は不要です。

水痘については、基本的には追加接種は不要と思います。

PCV については、わが国では認可されていない 7 価のワクチンをスケジュールどおり 4 回接種されていますので、問題ないと思います。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願います。

## Q46 帰国後のワクチン接種計画-2

(予防接種の種類)2006/7/31 生まれ 米国より帰国後のスケジュール

(相談内容)

アメリカから転入してこられたご兄弟なのですが、これから日本でどのように接種したらよいかご指導お願いします。なお、接種歴については原語での記入につき、別紙 FAX でお送りしますのでご参照ください。お忙しいなか、よろしくお願いします。

DTaP:2006/10/10, 2006/12/12, 2007/2/6, 2007/11/1

HIB:2006/10/10, 2006/12/12, 2007/8/1

IPV(不活化ポリオ):2006/10/10, 2006/12/12, 2007/2/6

Hepatitis B:2006/10/10, 2006/12/12, 2007/2/6

Hepatitis A:2008/1/30

MMR:2007/11/1

Varicella(水痘):2007/11/1

PCV(肺炎球菌):2006/10/10, 2006/12/12, 2007/2/6, 2007/8/1

FLU(インフルエンザ):2007/2/6, 2007/11/1, 2007/12/3

Rotavirus:2006/10/10, 2006/12/12, 2007/2/6

## A46

まず、杓子定規に言えば、海外で接種を受けられたものは日本の予防接種法の定期接種のスケジュールの範囲内で受けられたものではない、すなわち無関係と考えるのが、わが国の厚生労働省の基本的な考えです。

しかし、現実的にはすでに接種されているワクチンについては効果を発揮していると思われるので、わが国の定期接種の範囲では、以下の提案をしたいと思います。

- (1) DPT:DTaP はわが国の DPT に相当しますから、I 期初回が済んでいますので、最後に接種した 2007/11/1 から 12~18 ヶ月(今から約半年以内)で、I 期追加 DPT をお勧めします。
- (2) BCG:米国では BCG は接種されません。わが国では生後 6 ヶ月以内(特別な事情の場合は 1 年以内)が定期接種ですので、もうその範囲では接種できません。ご希望があれば任意接種となりますが、このタイミングでの接種の効果も考えると、わが国でも必ずしも絶対接種すべきとまでは言えません。
- (3) ポリオ(経口):不活化ワクチンを、すでに DPT と同時に 3 回接種されています。スケジュールどおりですと DPT の追加接種と同時にもう 1 回接種となりますが、わが国では同じワクチンがないため、経口生ワクチンでの追加接種をお勧めします。
- (4) MR:MMR として 1 回接種していますので第 2 期に進めばよろしいと思います。第 3 期、第 4 期は今のところこのお子さんがその時期を迎えたときのスケジュール未定です。



(5) 日本脳炎:ご承知のように 2005 年 5 月 30 日以降、積極的勧奨が中止されています。今後、岐阜周辺で過ごされるのであれば、今後の厚生労働省の指示を待つてよろしいと思います。ただし今後の渡航予定などから希望があれば定期接種として接種をしてください。

HIB ワクチンについては初回免疫が 3 回終わっており、現在のタイミングで追加 1 回が望ましいとは思いますが、現在わが国では使用できません。どうしても使用するとなると、個人輸入するしかありませんが、現実的には難しいと思われます。わが国での発売は来年以降になると思われますし、接種スケジュールの正式な公表もされていません。わが国で正式に使用できるようになるまで待つてもよろしいと思われます。

Hepatitis B については HBs 抗体検査をしてみないと何ともいえませんが、おそらくこの年齢では抗体を獲得している可能性が極めて高いと思われます。その場合は今後の追加接種は不要です。

Hepatitis A については、もう 2 回必要ですが、わが国で今後居住されるのであれば追加は不要と考えます。

水痘については、基本的には追加接種は不要と思われます。

PCV については、わが国では認可されていない 7 価のワクチンをスケジュールどおり 4 回接種されていますので、問題ないと思われます。

インフルエンザは毎年時期に任意接種で実施願われます。

Rotavirus ワクチンはすでにスケジュールどおり接種されていますので問題ありません。なお、わが国では未認可で使用できません。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本 DR 担当)に受診いただくようご指導願われます。

## Q47 乳児期接種順序

(予防接種の種類)

ポリオ・三種混合について

(相談内容)

法では、BCGは0か月から、ポリオ・三種混合はともに3か月から接種対象年齢となりますが、当市ではBCGは医師会の意見により3か月から接種対象としております。

当市では以前より、保護者の方に接種について、BCG→ポリオ1回目→三種混合1期初回を3回→ポリオ2回目という順序で案内しております。①BCGは対象期間が短い  
ため最優先②三種混合初回の3回間にポリオをはさむことによって、接種間隔が56日を超える可能性が高くなることを避けるため ③ポリオ1回目を接種せずに三種混合を始めた場合、3回連続して接種することによって、ポリオが最短でも2ヶ月弱接種できない。以上の3点の理由からこの順序で案内しておりました。

ところが、百日咳の予防を優先するならば、BCGのあとに三種混合を接種すべきではないのかと考えます。三種混合の接種間隔が守れなくても、免疫効果は高いと考え、市としてはBCG→三種混合1回目→ポリオ1回目→三種混合2、3回目→ポリオ2回目という順序で指導するべきなのでしょうか。ご教示ください。

## A47

あまり神経質にならなくてもよい問題だとは思いますが。しかし現在日本はポリオの流行がないこと、一方百日咳は流行していることや乳幼児では重篤になりうることを考慮すれば、ご提案のようにBCGの後にDPTを優先させるのも根拠があると思います。DPTの合間にポリオ接種をする場合のそれぞれの投与間隔に気を使う必要がないように、場合によってはDPTの3回終了後にポリオ2回でもよろしいと思います。

以上の説明で保護者の方がご納得されなければ、岐阜大学医学部附属病院小児科(毎週金曜日、寺本DR担当)に受診いただくようご指導願います。

岐阜県予防接種センター相談窓口  
**Q&A 集**

＜平成 20 年度＞

2009 年 3 月 31 日 第 1 刷発行

**編集・発行**

岐阜大学医学部附属病院生体支援センター内  
岐阜県予防接種センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1 番 1

TEL : 058-230-7246 FAX : 058-230-7247

**e-mail : vaccine@gifu-u.ac.jp**